

住友商事株式会社

契約の種類: アニュアルレビュー

日付: 2024 年 1 月 31 日

担当者:

Akshay Chandrakapure, akshay.chandrakapure@morningstar.com

Nachiket Goli, nachiket.goli@morningstar.com

はじめに

2023 年 9 月および 2022 年 5 月、住友商事株式会社（以下、「住友商事」）は再生可能エネルギー、生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理、クリーン輸送、エネルギー効率に関するプロジェクトの資金調達のため、2つのグリーンボンドを発行した¹。2024 年、住友商事は、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが住友商事株式会社グリーンファイナンス・フレームワーク（以下、「フレームワーク」）²で設定された資金使途のクライテリアやレポートの指標に合致しているかについての評価を、サステナリティクスに委託した。サステナリティクスは 2022 年 2 月にフレームワークに対しセカンドパーティオピニオンを提供した³。これは前回 2023 年 2 月⁴に続き、サステナリティクスが実施する二回目の資金充当および環境改善効果のアニュアルレビューである。

評価基準

サステナリティクスは以下の要件について、調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

- フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
- フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

表 1: 調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
再生可能エネルギー	以下の再生可能エネルギー発電に係る投資・開発・建設・運営保守に必要な資金 <ol style="list-style-type: none">風力発電太陽光発電地熱発電(直接排出量が 100g-CO₂/kWh を下回るもの) 法人への出資の場合、再生可能エネルギー/クリーンエネルギー事業専業又は売上の 90%以上を再生可能エネルギー/クリーンエネルギー関連事業が占めている法人に限る	<ol style="list-style-type: none">年間 CO₂ 排出削減相当量 (t-CO₂)設備容量 (MW)
生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	以下の認証を取得している森林の取得 <ol style="list-style-type: none">FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会)の FSC 認証	<ol style="list-style-type: none">取得した森林面積 (ha)
クリーン輸送	以下の鉄道関連事業に必要な資金	<ol style="list-style-type: none">駅数

¹ 住友商事は 2つのグリーンボンドを発行した i) 初回は 2022 年 5 月、第 60 回無担保社債で 200 億円を調達 ii) 2 回目は 2023 年 9 月、第 64 回無担保社債で 100 億円を調達

² 住友商事、グリーンファイナンス・フレームワーク : <https://www.sumitomocorp.com/jp/-/media/Files/hq/sustainability/greenfinance/framework.pdf?la=en>

³ サステナリティクス、セカンドパーティオピニオン (2022) : [https://www.sustainalytics.com/docs/default-source/backend/sumitomo-corporation-green-finance-framework-second-party-opinion-\(2022\)_revised-in-july-2023.pdf?s_fvrn=415a8c5c_1](https://www.sustainalytics.com/docs/default-source/backend/sumitomo-corporation-green-finance-framework-second-party-opinion-(2022)_revised-in-july-2023.pdf?s_fvrn=415a8c5c_1)

⁴ サステナリティクス、グリーンボンドアニュアルレビュー (2023) : [https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-corporation-green-bond-2022-annual-review-\(2023\).pdf?s_fvrn=fc5d895_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/sumitomo-corporation-green-bond-2022-annual-review-(2023).pdf?s_fvrn=fc5d895_1)

	i. 都市旅客鉄道の運営・保守	ii. 路線距離 (km)
エネルギー効率	<p>携帯事業者に対する 5G を中心とした基地局シェアリングサービスの提供に必要な基地局建設及び運営への投資に必要な資金</p> <p>i. 基地局シェアリングにより環境負荷削減効果が期待される。加えて 4G と比較して 5G はトラフィック単位あたりのエネルギー効率が高いと言われている。</p>	<p>i. 5G 基地局導入施設に関する事例紹介</p>

発行体の責任

住友商事は、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に ESG 調査と格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、住友商事のグリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、住友商事からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、適格カテゴリー内の対象プロジェクトに関して住友商事から提示された情報と事実とに依拠しています。住友商事が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を書く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会 (Sustainability Bonds Review Committee) が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果⁵、すべての重要な側面において、住友商事株式会社のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、グリーンファイナンス・フレームワークで規定された資金使途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。住友商事は、サステナリティクスに対し、2023 年グリーンボンドの調達資金が 2023 年 12 月末時点で全額充当されていたことを開示しました。

⁵ サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2: 調査結果の詳細

評価基準	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途 ライテリア	対象グリーンボンドの調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、フレームワークに示されている資金使途ライテリアとの適合性を検証	審査したプロジェクトは資金使途ライテリアに適合していました	該当なし
レポーティ ングクライ テリア	対象グリーンボンドの調達資金がじゅうとうされたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワークに示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証	審査したプロジェクトにおいて、フレームワークで設定された各資金使途ライテリアに対するインパクト指標が報告されていました	該当なし

参考資料

住友商事は2022年5月に200億円、2023年9月に100億円のグリーンボンドを発行。2023年12月時点において調達資金の100%が以下のプロジェクトに充当された。

表3：グリーンボンドの調達資金の充当状況

調達資金の用途の カテゴリー	プロジェクト概要	2022年グリーン ボンド調達資金の 充当額（10億 円）	2023年グリーン ボンド調達資金 の充当額（10億 円）	調達資金の充当 額合計（10億 円）
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> i. 欧州洋上風力発電. ii. 東南アジアにおける地熱発電 iii. 国内陸上風力発電 iv. 東南アジアにおける太陽光発電. 	5.2	7.9	13.1
生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	100パーセント子会社 Summit Forests New Zealand Ltd. を通じた FSC (Forest Stewardship Council®、森林管理協議会) の FSC 認証を取得している森林の取得	5.1	2.1	7.2
クリーン輸送	東南アジアにおける都市旅客鉄道の運営・保守	8.2	0	8.2
エネルギー効率	携帯事業者に対する 5G を中心とした基地局シェアリングサービスの提供に必要な基地局建設及び運営を行う Sharing Design Inc. への投資	1.5	0	1.5
調達資金の充当額合計		20	10	30

表4：報告されたインパクト一覧

調達資金の使途の категория	インパクト指標
再生可能エネルギー	i. 年間 CO ₂ 排出削減相当量 (t-CO ₂) : 514,425 t-CO ₂ ii. 発電容量 (MW) : 516 MW
生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理	i. 取得した森林面積 (ha) : 8,405 ha
クリーン輸送	i. 駅数 : 20 ii. 路線距離 (km) : 20 km
エネルギー効率	i. 事例紹介：携帯通信事業者向けに 5G を中心とした基地局シェアリングサービスを提供。渋谷、新橋、新宿等の関東複数エリアに加えて、福岡県、愛知県でサービス開始。早期の全国展開を目指す。

免責事項

Copyright ©2024 Sustainalytics. All rights reserved.

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、第三者データ）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の仕様に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは http://www.sustainalytics.com/legal_disclaimers をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な順守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。